

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成24年2月13日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成24年5月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念に基き、今日1日を楽しく愉快地に朗らかに過ごして頂くにはどうしたら良いかを意識するために、朝の申し送り後、声を出して理念を復唱している。また、利用者さんが孤独にならないように心掛けている。
春から秋にかけて、雨の降る日以外は庭散歩・日光浴をデイサービスの利用者さんと共に行い、交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽駅前からバスで10分のバス停に近い交通の便の良い住宅地にあり、広々とした敷地内には、季節の花が咲き、散歩を楽しむことができる。敷地内にデイサービスセンターが併設されているので、気軽に訪問し合うなど利用者同士の交流も盛んである。建物内は明るくてバリアフリーになっており、車椅子対応の洗面台やトイレ、浴室、歩き易く工夫された階段、エレベーターなど設備が整っている。洗濯機も通常用と汚れもの用が用意されており、従業員用のトイレも別途にある。経営理念に基づき、事業所と地域との交流に力を入れており、事業所主催の行事が盛りだくさんで、事業所と地域との交流を意識した行事を毎月予定し、積極的に交流を図っている。管理者は、家族等の訪問の際や運営推進会議で、家族の意見を良く聞いており、「伝達ノート」を用意して家族とのやり取りを直接話法で克明に記載している。医療面に力を入れており、利用者は希望の医療機関を自由に受診できる。代表者と管理者は看護師資格を保有する医療の専門家で、通院支援は事業所で行っている。家族が同伴するときでも可能な限り管理者が同席している。避難訓練を年2回消防署の協力のもと、夜間想定で実施しているほか自主訓練も3か月に1度行なっている。訓練には町内会の役員や民生委員、家族等に参加してもらっている。救急救命訓練も定期的実施し災害用備品も準備している。

V. サービスの成果に関する項目(1階りごアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの最後に、スタッフ一同が声に出して、幸の理念を確認しあっています。日々の実践、行動に反映する努力を続けています。	理念は地域交流を意識した分かりやすいもので、パンフレットや玄関、事務所に掲示され、毎日の唱和で管理者と職員に共有化され、新人教育の場でも確認されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	レクリエーション(ひな祭り、盆踊り等)時、地域の方に案内を出し、交流を深める機会としている。冬季の除雪は町内の役員の方と連絡をとりながら、除雪機をお願いしたり、行き投げ場所を話し合っている。	事業所主催の行事では、ひな祭りには、地域の婦人部の役員の方々が訪問し、盆踊りには、地域の方が見学に来てくれている。また、事業所と地域との交流を意識した行事を毎月予定し、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、2町内50組にホーム便りを発行している。町内の方から「見せてもらっているよ」と時々声をかけられます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間のホームでの報告・病気における取り組み対応の実例を上げ、救急時はどのように動いたか名度を説明し、理解を得ています。	運営推進会議には、町内会役員や民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加している。また、時には消防署や警察の担当者の参加を得て情報や意見交換している。前年の外部評価での取り組み課題である家族宛の開催案内は実施したが、議事録の送付はこれからである。	議事録は事務所で確認できるようになっているが、運営推進会議に対しての家族の関心を高めるために、毎回の議事録送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導を受けたことは積極的に日頃の業務に取り入れ、理解できないことはアドバイスをうけるよう努めている。	単身利用者の成年後見人についてなど困った時には市の担当者に相談して意見をもらっている。また、市の介護雇用プログラム推進事業に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないという方向を堅持し、ベッドより転倒しそうな利用者には床にマットを敷いたり、ベッドを外したり、日頃より工夫をしている。	「身体拘束ゼロへの手引き」を中心にマニュアルを整備している。管理者は身体拘束についての弊害を理解しており、会議でも取り上げている。事業所前が道路に面していることから、玄関はリモコンで閉鎖しているが、利用者が外出したい様子の時は、職員が察して一緒に外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に対し、日頃より特に言葉遣い、ケアの実践において無理な言動があった場合、話し合いの場を設け、未然に防ぐよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同じ施設内にあるデイサービスの職員と自立について話し合いをしたり、包括支援センターより成年後見の制度を利用し、3名支援を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、誤解のないよう書類等を用い、説明を行い、解約又は改訂においては日頃の会話より例を上げ、不安感をもたれないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営においては推進会議等において役員家族などから意見要望などを聞き、実行できるものはすぐ実践できるよう努めている。	家族等の訪問時や運営推進会議など機会のあるごとに積極的に意見を聞いている。「伝達ノート」に家族とのやり取りを直接話法で克明に記載し、職員間で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時及び1ヶ月に一度の職員による会議の時、意見を出し合い、運営への反映に努めている。	毎朝の申し送り時に、気がついたことは連絡ノート等を活用しながら、職員の意見を聞いている。また、毎月、月末の土・日に全体会議・研修を行ない、職員の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者の思いと職員の思いが時として食い違う時もあるのもっと向上心を持っていける職場環境を作る必要があると感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相互研修及び外部研修があれば積極的に参加し、資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を深め、意見の交換をすることにより、サービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、本人・家族より希望や不安等を聞いた上で介護計画をたて、安心していただけるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一部の家族の方においては利用者の健康(糖尿病)を考え、おやつなどの説明に時間を要したが、徐々に理解して頂けるようになった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応において、認知症の理解が乏しい場合が多いので、症状から説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員に対し、勤務中であっても、本人との関わりを数分でも出来る機会があることをよく話し合い、四季を通じ、暑さ寒さの話題などを話し合う機会を設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人の生活・健康面等を説明し、一緒に支えていく必要性を自然に理解して頂けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの生活が長くなると、外に出たがる傾向が徐々に少なくなるため、常々思い出話をし、馴染みの人と会うように働きかけている。	利用者の友人や近所の方が訪問してくれるので、お茶を出して居室でゆっくり話をしてもらっている。また、利用者の希望に応じて馴染みの手芸店や喫茶店、カラオケに行くこともある。家族の協力を得て葬儀、法事、墓参りなどにも出席してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないよう、レク・散歩などを通じ、何かと話し合う場を設けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が入院され、残された家族の近況を電話等で話し合い、特に健康面でのアドバイスを時々話し合っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方においては、出来る限り自由にその人らしい生活が出来るよう、自室での消灯時間を定めななどして、支援しています。	利用開始時に、センター方式のアセスメントシートで情報を収集し、その後は、事業所独自の課題分析シートに記録することで利用者の思いや意向を把握することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室は生活歴に合ったように自由に利用して頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方は自由ではあるが、部屋で過ごしがちな利用者にはレク・散歩の誘いはしますが、無理の無いよう声かけております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時本人家族と話し合い、介護計画・モニタリング等について意見を聞きながら、日常生活に連動するような具体的な計画を立てるように努めている。	家族や医療機関等の情報を事前に収集し、利用開始時までに暫定の介護計画を作成し、その後は、毎月モニタリングを行ない、短期3か月、長期6か月を基本に介護計画を見直している。状況が変化した場合には、その都度見直しを行ない、介護日誌も介護計画を意識して記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送りで24時間の本人の特異的な言動について、情報を出し合い、サービス担当者会議から介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する認知症の症状や身体のケアが必要とされるホームの現状の中で早期発見・早期治療ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春・夏・秋と小樽の自然を楽しみ、地域のお祭り、小学校の学芸会、運動会へ行き、と生活の幅を持てるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢者の病気は多様であり、専門医を中心に受診を行い、的確な医療が受けられるよう努めている。	利用者は希望の医療機関を自由に受診できる。代表者と管理者は看護師資格を保有する医療の専門家、全員の通院支援を事業所で行っている。医療情報も全職員が共有化している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1ユニットに1人ずつ看護師がいるため日常より情報交換を行い、適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、面会時、病棟看護師に治療状況を聞いたり、退院時、医療相談のアドバイスを受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の目安として、食事が食べられなくなったり、水分を受け付けなくなった場合、ホームでの対応は無図がいいことを入居前に家族に説明し、理解して頂いたうえで入居していただいている。	利用開始時に、利用者・家族等に「医療連携体制加算重要事項説明書」を示し、看取りの指針について説明し、同意書を交わしている。現状では看取りは行なわない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応(誤嚥・救急蘇生)においては、時々訓練を行っているが、定期的に行い実践力を身につけるようにつとめたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災においては、定期的に防災訓練を実施している。地域との協力体制においては、推進会議役員の協力をお願いし、実施して気が、今後もホーム便り等でお願ひしていきたい。	避難訓練を年2回消防署の協力のもと、夜間想定で実施しているほか自主訓練も3か月に1度行なっている。訓練には町内会の役員や民生委員、家族等に参加してもらっている。救急救命訓練も定期的に実施し災害用備品も準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のケアの名嘉で特に言葉使いに注意し、どの利用者の方にも不快にならないような言動を心掛けている。	言葉かけについては禁句集を基に指導している。職員の言葉遣いで気になったときには、その時々介護現場で管理者が注意をしている。記録物は入居者の視野に入らないよう保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望することはホームとして可能であれば実行して頂いている。難しいことは家族の協力を得ながら本人と話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方は基本的には自由であるが、レク・散歩等は参加を促し、本人の希望に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きた時、女性としての身だしなみ・オシャレなどには時間を惜しまず支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好を大切に、朝昼夕、今日の食事の味はどうですかと聞き、一部の利用者には厨房の手伝いをお願いしており、自分の役割として元気に頑張って頂いている。	食材の刻み方やとろみなど食事がスムーズに取れるように支援している。利用者に、落ち着いて静かに食事をしてもらうために、職員は食事に同席せず、食事介助に専念しているが、代表者と管理者が1日2食、利用者と同じ食事をし、味や献立をチェックしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量、水分量をチェックし、食べる量が少ない場合栄養剤を医師に処方してもらったり、お茶が無理な時はジュース等を飲用してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き介助を行っている。嫌がる利用者にはうがいだけをしていただけるよう働きかけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗をしないよう排尿パターンを把握し、個々に合った時間に誘導を行っている。	水分量や排便、排尿回数を24時間記録し、その記録を基にトイレで排泄できるように誘導している。日中おむつを使っている利用者もいるが、できるだけトイレやポータブルトイレでの排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対し、リハビリ体操を取り入れ、腹筋運動に力を入れている。それでもダメな場合は医師に相談し、下剤を使用するときもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日が決まっているが、本人が希望すればいつでも入浴できるように心がけている。	受診日と重複しない日程で、基本的に週2回、午前中に入浴してもらっている。入浴拒否の利用者には、同性介助や言葉かけを工夫して入浴してもらっている。状況や希望に応じて、入浴回数や時間の変更を行なっている。夏場はシャワー浴など臨機応変に対応している。	菖蒲やみかんなどを湯船に入れて季節を感じてもらったり、レモン湯や入浴剤の工夫で入浴を楽しんでもらいたいとのことなので、その実現を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼と夜とが逆転しない限り、本人の意思に任せている。夜間に遅くまでテレビ視聴されている時はその時にに応じて眠る必要性を話し合っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用においては出来る限り朝の申し送りの時に話し合っている。特に薬の変更があれば、その理由と副作用について確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1回笑いのある時間を作る為、関わりを大切にしている。一人一人に合った関わりをする様、日頃より話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望されたその日にすぐ外出は難しいが前もって希望があれば申出をお願いしている。また管理者より外出希望を聞いたり、家族に協力をお願いする時もある。	春は花見、夏は海や水族館に、秋は紅葉を見に出かけている。受診後にドライブをしたり買物をして気分転換をしている。ホームの敷地に広い庭があり、車いすでも移動できるよう散歩コースは舗装してある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一時希望者にはお金を所持して頂いていたが、トラブルが多く、家族の協力のもと管理はホームが行っている。外出時希望する買い物があれば本人に支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族・知人・友人等自由に電話をしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・食堂・浴室・トイレ等は居室より離れており、音ができるだけ聞こえないように配慮している。季節感においては庭の花などを食堂に飾る工夫、また庭には色々な花を植え、季節感を出している。	共用空間は全てバリアフリーとなっており、食堂には観葉植物や金魚が泳ぐ水槽が置かれている。トイレは、ドアにのれんを掛けることでプライバシーに配慮している。大きな窓からは十分な緑が広がり、季節を感じながら、明るい陽射しの中で、利用者は、一人ひとりのペースで静かに過ごしているが、共用空間の装飾に季節感が少ない。	共用空間の装飾を工夫することで、季節を感じることができるよう、期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を設けているが利用者が利用する時は家族からのオヤツを食べて頂く程度である。利用者同士の過ごし場所はデイルームが中心になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては本人と家族が相談して自由に模様替えをして頂いている。また、家で使用していた物を持参して飾ったりしている。	24時間換気システムの装置があるので居室内は十分換気されており、全室に加湿器を置いている。趣味の本や写真、カレンダーなどご本人の馴染みのあるものを活かしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かるように居室前に自分の写真を飾っている。ベッドからの転落の恐れがあれば、床にマットを敷いて安全性を高めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階りんごユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年5月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階みかんアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎朝復唱することにより、会話による関わりを多く持つよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と顔を合わせる事があれば挨拶し、冬季には協力して除雪をすることで交流を深めることに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内50所帯に2ヶ月に1度ホーム便りを発行し、ホームでの生活を理解してもらえるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の際に2ヶ月のサービス内容を写真で紹介したり、評価への取り組み状況について意見を聞いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は指定更新の時期にあたり、ケアサービスの内容などにおいて指導を受けました。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いついかなる時も身体拘束をしないケアの実践に努め、ベッドより転倒しそうになるような場合は床にカーペット・マット・敷布団を使用し、転倒防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より個々のケアについて朝の申し送りで話し合い、虐待を見過ごすことのないよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1階ユニットに1名の成年後見制度を受けている入居者がおられ、活用までの流れについて学ぶ機会を得た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までの流れなどにおいては、家族の疑問がないよう1つ1つ確認したり、解約については要注意を早くより家族と相談する機会を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議がある月日は全家族に案内を出したり、面会時に管理者から意見がないかを聞いたり2ヶ月に1度の幸便りを町内の方に読んでいただいている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営において一方的に指示することなく、その問題について職員の意見を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握した上で、一生懸命努力している職員に対し、感謝の気持ちを表す努力を怠らないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1人ずつ他のホームへの相互研修及び他施設での研修会に出席してもらい、レポートを提出してもらい、閲覧を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時々同業者の方よりケアの方法・運営方法などを聞き、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前や直後などは本人や家族と面談をし、どのようなサービスが必要か把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況を聞きながら、同時に家族からの要望等を聞くようにして、サービスにつながるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用するにあたって時間をかけて話し、その要望を聞きながら必要なサービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話・関わりの時間をできるだけ多く取り、一緒に過ごしていると思っただけのように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を伝え、面会に来て一緒に過ごして頂けるようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診の帰りに知人の店へ行ったり、手紙を出すのを手伝ったりと関係が続くように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂などで職員が会話の仲立ちになるなどして、利用者が良い関係を作れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へ面会に行ったり、家族と年賀状のやりとりをしたりと関係が続くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から会話を多くして、それぞれの意向を聞き、日々の生活につながるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の際に本人や家族からこれまでの生活について聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で関わりを持つようにし、過ごし方やその状態を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を実施した結果について記録し、また、家族との話し合いをして、介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人についてサービスの内容や結果・反応について気付いたことなどを記録し、申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に医療については、本人家族の希望により専門医を受診しております。生活も出来る限り希望を取り入れております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームには散歩コースがあったり、金魚の池やバス停があり、町内の暮らしを感じている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病気に対する専門医を受診することにより、早期発見、早期治療が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、起床から就寝に至るまで、また夜間を通じ、個々の身体・精神状況の把握に努め、異常を認めたらすぐホームの看護師に報告し、適切な受診が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する機会があれば、常に病棟看護師やケースワーカーと連絡を取り、家族への報告を怠らないように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族・本人に対し、当ホームにおいては食事(流動食・エンシュア)を食べられなくなれば、入院となり終末期(死亡)までホームで過ごす介護をできないことを例を上げて説明・納得して頂いた上で入居して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、内部研修時に誤飲字蘇生術、救急車の手配の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策としては運営推進会議の時、役員・家族の協力を得て避難誘導を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活史を大切に、その人の希望を出来る限り尊重し、ケアをするよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームの生活は団体生活が主となるので、ルールを守りながらみんなが協力した上で自己決定が出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどう過ごすか、本人の事由に任せているが、午後からのレクリエーション・散歩などを行う際は声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々における身だしなみは充分注意して協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時、食材の内容や味付けなどに食事を作ったヘルパーを交え、話し合っ利用者の意見を聞いている。準備、片付けも協力を得ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は栄養士がいる会社に依頼し、栄養バランスが摂れるように常にお願している。水分量も個々に違うので(体重×24時間)チェック表を用いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔を保てるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、誘導・声掛けなどを行い、自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便においては特に注意を怠らないようにし、運動・散歩等に力を入れ、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴の曜日を決めているが、本人の希望や失禁の対応などによって個々に沿った支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めているが、本人の週間に合わせている場合が多い。朝も洗面・食事に間に合えば起床時間は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	時々薬の目的・副作用等について本人の理解を得たり確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者は食事及びレクリエーションを楽しみにされており、オヤツや庭での散歩は気分転換の一役を担っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院の帰りにショッピングをしたり、本人の希望があれば買い物に出掛けたり、ホームの日用品を買う時などで一緒に戸外にでる機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで管理させて頂いているが、買い物の時には出来るだけ本人に払って頂く様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人からの希望に応じるようにし、手紙のやり取りはホームからも話しかけを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室からデイルーム・トイレ・台所等、音のする場所は少し離れた造りになっており、騒音を最小限に留めるようにしている。窓からは庭が見えたり、道路はバスが通り生活感・季節感が出ている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他覚的に見てデイルームにおいては気の合った利用者同士が何かと話し合っている。また、一人になりたいときは居室でテレビ・ラジオ等を聴いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室において、本人・家族が自由に模様替えをして頂き、使い易いようにして使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は一人部屋なので、居室での生活は自由に使用している感じを受けます。家族の写真・仏壇をおいたり、好きな音楽を聴いたり、編み物などを楽しんでいる人もいます。		

目標達成計画

事業所名 有限会社 グループホーム幸

作成日：平成 24年 5月 18日

市町村受理日：平成 24年 5月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	1年間を通じ退職する職員が多い。	①働きやすい環境作り ②長く働いてもらう	①問題行動が発生した場合、一方的に理解を求め るのではなく、問題解決に向けてみんなで話し合 う。 ②日頃よりコミュニケーションを大切にする。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。